

第2回 文化財修理センター（仮称）の在り方に関する検討会

一般社団法人国宝修理装演師連盟と その技術者による国際交流事業



選定保存技術保存団体
一般社団法人 国宝修理装演師連盟
副理事長 半田 昌規

2022年8月10日

国宝修理装飾師連盟の国際交流活動のはじまり

国宝修理装飾師連盟と海外の美術館・博物館等との交流は、昭和34年の連盟設立まもない頃から現在まで、様々な形で実施されています。

日本の装飾技術の基礎を海外の研修生に紹介するとともに、当時の海外の先進的な文化財修理の倫理を日本の装飾文化財修理に取り入れ、現在の装飾文化財の保存修理の基礎となっています。

- 昭和28(1953)年
「指定文化財修理技術者養成講習会」開始
- 昭和34(1959)年
『国宝修理装飾師連盟』の設立
- 昭和42(1967)年
ユネスコ、国際博物館会議(ICOM)主催
「東洋美術保存修復専門家研修」に協力



東洋美術保存修復専門家研修の様子

加盟工房

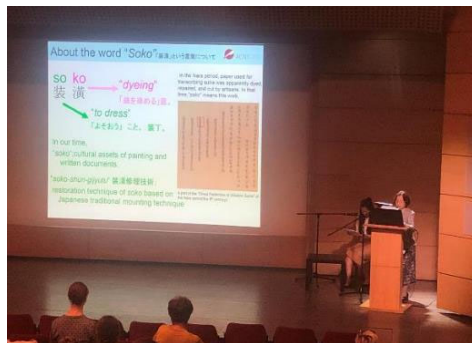
(五十音順)

- 株式会社 岡墨光堂〔京都〕
- 株式会社 光影堂〔京都〕
- 株式会社 坂田墨珠堂〔滋賀〕
- 株式会社 修護〔東京〕
- 株式会社 修美〔京都〕
- 修理工房 宰匠 株式会社〔福岡〕
- 株式会社 松鶴堂〔京都〕
- 株式会社 半田九清堂〔東京〕
- 株式会社 文化財保存〔奈良〕
- 株式会社 墨仁堂〔静岡〕



国宝修理装飾師連盟では 設立以来、各国の専門家と交流を図ってきました。装飾修理技術のワークショップや海外研修生の受け入れ、在外の日本文化財修理にも協力しています。

装飾修理技術の指導に加え、和紙を始めとする日本の伝統材料や道具類の紹介など、技術交流や選定保存技術の広報活動を行っています。



ポーランド・クラクフでの発表



JICAエジプト国別研修



ICOM京都大会



大英博物館への技術者派遣

国際シンポジウムの開催

海外の文化財修理の現状などを一同に介して知る機会として、国際シンポジウムを開催してきました。

平成7年に選定保存技術団体に選定された記念として、初の国際シンポジウム「日本美術品の保存修復と装演技術」を主催し、以降は、平成16年に定期研修会第10回記念国際シンポジウムにて、アメリカ、イギリス、中国、韓国、日本の保存修復の第一線で活躍している方々から、各国で実践している東洋の文化財の修復の現状と今後の展望や各国共通の課題等についてご講演いただきました。

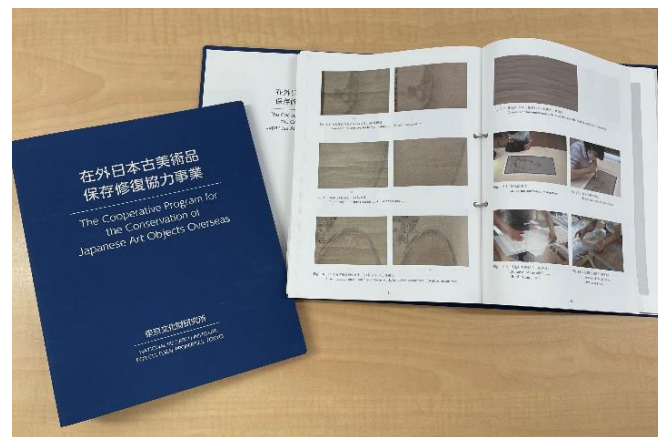
平成18年には「東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」を開催し、以降このシンポジウムは第5回（平成24年）まで日中韓で開催しました。



「在外日本古美術品保存修復協力事業」

文化庁・東京文化財研究所・財団法人文化財保護・芸術研究助成財団による「在外日本古美術品保存・修復事業」は、海外に所在する日本美術品の修理を行い、日本の修理の考え方と修理技術を海外の方に理解していただくことを目的にした事業です。

当連盟は平成2年からこの事業に協力し、在外の文化財修理を行っています。



大英博物館への技術者派遣

平成18年度より住友財団の助成を受けて、イギリス・大英博物館にて修理事業を継続しています。

経験豊かな技術者を大英博物館の平山スタジオへ派遣し、現地の職員と大英博物館所蔵品の修理作業を共同でおこなっています。現地での共同の作業で、日本の装飾修理技術への正しい理解を促し、技術者は海外での経験を積み視野を広げる機会となっています。



JICAエジプト国別研修 「保存修理としての和紙研修」

大エジプト博物館に開設される保存修復室の有機物担当者に、将来的にパピルスなどの有機物の修理に日本の技術を活用できるように、日本における装飾修理技術の進め方や、伝統的な道具、材料の取り扱いの指導と実習を行いました。

(平成26年・平成27年)



東京文化財研究所と各海外機関による国際研修への技術協力

平成4年から東京文化財研究所と各海外機関による国際研修に協力しています。
東京文化財研究所とICCROM（文化財保存修復研究国際センター）による
「紙の保存と修復（日本）」、「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復（メキシコ）」を始め、

東京文化財研究所主催、ベルリン博物館群・ドイツ技術博物館協力の
ワークショップ「日本の紙本・絹本文化財の保存と修復（ドイツ）」、

東京文化財研究所と国立台湾師範大学共催のワークショップ「染織品の保存と
修復（台湾）」などの講師として当連盟の技術者が招聘を受けています。

東京文化財研究所と各海外機関による国際研修への技術協力

「国際研修におけるIT技術導入のための 実証実験」 2020年～

国際研修「紙の保存と修復」のオンライン化を想定した実証実験に対する講師で技術者を派遣しました。

東京文化財研究所の職員を受講生と見立てて、配信機材や実施における問題点などを検証しました。



(写真：東京文化財研究所提供)

オンラインによる海外の装飾文化財の リモート修理調査の試み

現在、新型コロナウイルス感染症により海外からの装飾文化財修理の調査依頼に対し、技術者を現地へ派遣することが困難なため、現地職員（学芸員・ペーパーコンサバター）と当連盟技術者をオンラインで繋ぎ、リモートで現地にある装飾文化財を調査し修理設計を立てる計画をしています。

今後、文化財修理の分野においても、IT技術が活用される場面が増えてくると思われます。